

11月集会の言葉

2学期が始まり、早、2か月が過ぎました。この9月・10月は、本当に大きな行事をやり遂げるための挑戦が続いた2か月だったかと思います。心のテーマは「貢献」でした。運動会、合唱コンクールと、みんなで思いを一つにして創り上げ、やりきった姿は、まさに『自ら』『共に』『挑む』力が結集した素晴らしい姿でした。学級・学年・学校に、自分なりの貢献ができた人、たくさんいましたね。

それぞれがいろいろな役割を担ううえで、もしかしたらやる前に「大変そうだからやめとこうかな…」とか、いざやってみたけれど「もう大変だから無理…」と感じたこともたくさんあったかと思います。でも、この「大変」から逃げ出さずに最後までやってみたら、やる前に比べて成長した自分に出会えた人もたくさんいるのではないのでしょうか。

以前にも話したことがありますが「大変」と感じることは、実は自分自身が「大きく変わる」チャンスなのです。今回みんなは、これを実際に経験したはず。みんなの振り返りや感想にたくさん書かれていました。挑戦すれば、必ず成長した自分がそこにいます。「成長実感！」これが次のエネルギーになりますね。

さて、今日から11月がスタートします。2学期も残り2か月です。11・12月の心のテーマは「共に生きる」です。「共に生きる」とは？ここで質問です。みなさんが今、生活している中で、自分一人の力だけで成立することってどんなことがありますか？少し考えてみてください。どうですか？深く考えれば考えるほど、「ない」ということに気が付きますよね…

私たちは決して一人で生きているのではなく、お互いに助け合い、補い合って成り立っている社会の一員として生かされているのだということに気づくはず。そのことを心にとめ、『共に生きる』って、どういうことだろう…補い合って成り立つ社会って…

そのために自分がやらなければいけないことは何か。反対に、やってはいけないことは何か。その答えをしっかりと見つけ、まずはこの板津中学校という小さな社会の一員として、「共に生きる」ことを大切に、「わくわく登校、にこにこ下校」を実現してください。それが、将来の自分のわくわく・にこにこに、必ずつながるはず。

4月・5月は「つながる」、6月・7月は「やりぬく」、8月は「平和」、9月・10月は「貢献」、11月・12月は「共に生きる」。ちなみに、1月・2月は「なりたい自分」、3月は「感謝」です。これらは、すべて「自分の人生を自分で生きる」ために大事にしてほしいことです。どんなときも自分の人生の主演は自分自身だということを忘れないでください。そして、圧倒的な当事者意識をもつことが、人生を幸せに生き抜く秘訣です。今年、板津中学校が大事にしている「智・仁・勇の心」は、私たちが人生を豊かにする上で大切なことを示してくれています。

さあ、その「勸進帳」上演ですが、いよいよ4日、5日の本番が、もうすぐそこにやってきました。3年生にとっては、本当に大きな挑戦だったかと思います。全く何もわからない「ゼロ」の状態からスタートし、よくぞここまでたどり着いてくれたと、みんなのその覚悟と努力に感謝です。

一人一人が、それぞれの立場で自分が担った役割を精一杯果たすために、試行錯誤し、どうやったらよりよくなるか真剣に向き合い「自ら」「共に」考え、「挑む」姿がたくさんありました。その様子を見るたびに、「本当に、この子たちがいてくれてよかった」と、心の底から思う日々でした。運動会や合唱の取組を並行して行いながらも、毎日の稽古に、素直に誠実に一生懸命に頑張り続ける姿は、本当に尊敬に値する姿でした。

本番では、これまで頑張ってきたことを、すべてを出し切り、「これが板津中学校の勸進帳だ」という覚悟が伝わってくる「最上級な舞台・ベストステージ」を届けてくれると確信しています。

最上級な舞台は、決して技術だけでできるものではなく、そこに思いがあつてはじめて完成するものだと思います。セリフの意味を知り、その言葉や行動に思いをさせ、準備してきたからこそ、見ている人たちに伝わるものがある。この舞台を通して自分たちが伝えたいこと。それは「智・仁・勇の心」です。この信念をもって、魂のこもった姿で、観客を魅了してください。それができるだけ準備はしてきました。自信を持って…

舞台に立つ役者の覚悟と、その役者を輝かせたいというスタッフの願いと、演奏で盛り上げたいという長唄・囃子方の熱意、そして、憧れの先輩たちを応援する後輩たちの思い…

これらすべての力が結集してできた「板津中学校勸進帳」を、みんなで楽しみ、成功させましょう。

以上、11月集会の言葉とします。